



利用指導—授業と講習会の事例—

首藤 佳子
加藤 美紀

「利用指導」あるいは「利用者教育」という言葉は何かことごとしい感じを与えてしまうが、端的に言えば利用者が図書館の機能、各種情報資源を十分活用できるように図書館員が行う援助全般のことである。したがって、資料の整理業務のように仕事の輪郭がはっきりと限定されたものではなく、図書館の仕組みを案内するオリエンテーションからごく専門的な援助まで多岐にわたる。さまざまな問い合わせに応えるレファレンスワークも利用指導の一種と考えることができる。各図書館の考え方や図書館員の力量、創意工夫がよく表れるところでもある。本稿では星ヶ丘厚生年金病院で行っている「利用指導」について、特に授業、講習会を中心に事例を紹介する。

1. 看護学校における「文献検索」の授業

星ヶ丘厚生年金保健看護専門学校には保健学科と看護学科があり、毎年両学科併せて6コマ（保健学科4、看護学科2）の授業を病院司書が担当している。1コマの授業時間は90分。どちらの授業でも、看護研究における文献検索と文献の活用の仕方を教えている。看護学校での授業は在学中の学習に役立つことはもちろんだが、保健婦、看護婦としての卒後教育の基礎ともなり、病院図書室の利用指導としても有益である。

すとう よしこ：星ヶ丘厚生年金病院

かとう みき：星ヶ丘厚生年金保健看護専門学校

授業は各学科教務主任と相談しながら行うが、1999年度保健学科における授業内容と進め方は以下のとおりである。

1. 授業内容

第1日目

講義の目的、看護研究と文献、文献の種類とその解説、文献調査・文献検索の方法、主な二次資料とその解説

第2日目

文献検索とは、検索目的、検索ツールの選択、検索主題の解析、検索語の選択、検索ツールの使い方（マニュアル検索・コンピュータ検索）、検索結果の見方、文献選択時の留意点、検索結果の保存、文献入手（所在確認・入手方法）、文献ファイリング

第3日目

看護文献検索実習～マニュアル検索～
最新看護索引・日本看護関係文献集
医学中央雑誌

第4日目

看護文献検索実習～コンピュータ検索～
• CD-ROM検索
医学中央雑誌CD-ROM版、今日の診療など。
• Internet検索
簡単な用語解説、有用サイト紹介とアクセス

2. 進め方のポイント

授業は、どこにいても役立つよう一般的な文献の検索および入手のシステムを知ってもらうことを主たる目的にしている。テキストは、看護学大系、看護学教科書などの該当箇所を踏ま

えながらも、毎年加筆訂正して独自に作成している。

また、実習を2コマとって検索を体験してもらうことを重視している。これは、講師である病院司書に看護学校司書も助手で加わり、利用者と図書館員のコミュニケートの場としての意味も持たせるようにしている。

マニュアル検索は、検索に必要なさまざまな要素、基礎的な項目が網羅されるよう課題を20問用意し、時間内に解答してもらう。コンピュータ検索（CD-ROM検索およびInternetを使った情報検索）は、利用に際して必要な基本的な用語を簡単に説明し、学生たちが用意してきた主題について文献・情報検索をしてもらっている。時間があれば、Internet情報源としてfolio：フォリオ（病院図書館員のためのウェブページ）、わくわくナースネット、厚生省などの各サイトに実際にアクセスして簡単に紹介することにしている。時間内では十分消化できないので授業終了後1～2カ月は予約制でグループ指導、個別指導を受け付けている。

また、最新の雑誌記事だけでなく、スタンダードな知識習得のための文献の必要性やニューメディアの動向など、学生であることや時代的な背景に特に注意して授業を進めることにしている。

3. 評価

学校では、授業内容について過去3年間に一度学生アンケートをとった。多項目にわたる設問で、今後の参考に結果を見せてもらった。このときは一定好評であったが、講師の人柄や資質に関する評価項目もあり、結果を見るのはなかなかスリリングであった。

II. 病院の講習会

病院においては、個別指導が中心になるが、いくつかの講習会、説明会、講義などの経験がある。最近開いた主なものを以下にあげる。

1. 院内研修会での講義

院内各部署がそれぞれ開いている院内研修会

では、文献検索についての講義を依頼されることがある。これは、定例化しているものもあり、単発で行う場合もある。講義は先に詳しく述べた看護学校での講義の内容をコンパクトにしたもので、実習を行わない分、希望者には日を改めて予約制により検索の実際を教えている。

2. 図書室主催の説明会や講習会

Internet接続や新しい機器類の導入に際しては随時説明会を開いている。Internet利用説明会は計5回開き、参加者は合計90名近くになった。また、検索ソフトのバージョンアップなどに伴って検索方法が大幅に変わった場合などは、2か月間にわたって決まった日時に希望者（グループ編成）に使い方を教えている。

最近では、数台のコンピュータを使って「ホームページ作成講座」を計4回開催し、院内各部署から関心のある人たちが参加した。その結果、リハビリテーション部のホームページがアップされたほか、一部の医師による研修用ホームページ（例：GASTRO GALLERY／消化器疾患の比較的稀な症例集）の作成やヴァーチャルホスピタルの試みなどがなされた。今後は、EBM等いくつかの主題についても外部講師を招いて講演を依頼するなどの企画を考えていきたい。

III. 結び

以上、簡単に当院における「利用指導」の一端を紹介した。このような集団を対象にした利用案内や講義は、個別指導にかかる時間と手間を省く上でたいへん有効である。また、図書館がこうした機会をたびたび設けることは、職員に対する一種の啓蒙活動としての意味があり、図書館と利用者相互のフィードバックとコミュニケーションを図る機会となる。今回紹介したような授業を通した学校と病院の司書の連携も「利用指導」の一つの試みである。一方、「利用指導」は図書館員にとっても専門的な知識や技術の修得と定着に役立ち、利用者の質問や疑問に答えることによって「図書館員」として育ててもらいたい機会だと考える。